

魯西亜船大概

第一フレカット本船

主役ノ名フーチヤリチン 船名ハルラーダー
船ノ長サ百八十七フット 但三十二間九合
同幅 四十五フット 但七間九合
乗組 四百廿六人 □船四艘

魯西亜國ヒートルブルグユルヨリ 四艘一同子十月
出帆漂流人連渡り不申

第二ストームホート蒸氣船

船頭ノ名 ユルサコフ 船ノ名 ウヲストウク
船ノ長サ 百十フット 但十九間三合
同幅 二十四フット 但四間二合

乗組 三十八人

右二艘者ヒートルブルグ義船

第三コルフエット軍船

船頭之名 ナシモフ 船ノ名 オクウツサア
船ノ長サ 百廿二アト 但廿三間三合
同幅 三十六フット 但六間三合
乗組 百六十三人

第四タラシスホルトレキツア

船頭名 フウールウルヘルム 船ノ名 ノーニシコフ
船長サ 九十フット 但十五間八合
同幅 二十八フット 但四間九合
乗組 廿八人

警固者 呂輕之



船長サ 九十七ト但十五間八合
 同幅 二十八ト但四間九合
 乗組 廿八人

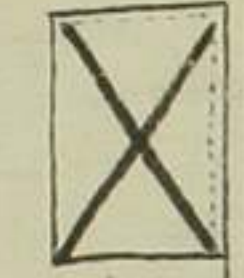
警固者 呈短之



上官頭長
 フーナーケン像

銀錢祇内
 國王像

星の紋
 足高官印
 國王を九分

一 嘉永六年五月十七日魯西亞船四艘長濱表に
 入津之事板之上に本海にやと假名を書又船に
 表先^に  右に船中より小浪戸高津尻
 其鴻之備より不忍鴻場と申所^に 旋^に 卸
 船見^に 船中より馬場五席有^り 高^に 石^を 運^び 揚^げ 申^す
 十九日二檢使福井金平高林忠吉等^と 申^す
 廿一日使^に 船中より子ヤリ^に 外^に 官人^を 兩^名 カビタ^に
 一人醫師一人^を 皆^に 取^り 一人召連上陸西御被^に 不
 大^に 改^め 産^を 米^を 飯^を 屋^を 御^に 奉^に 行^き 出^で 席^を 飯^を 屋^を 者
 元より養^を 麗^を 有^り 大^に 市^を 中^に 富^を 家^を 命^を 一^に 命^を
 金^を 屏^を 風^を 敷^を 十^を 双^を 爲^り 了^す 船^を 上^り 了^す 口^を 閉^め
 警固士二十人計^を 若^く 二^挺 銃^を 持^ち 二^行 行^き

元より養麗あり市中富家の命

金屏風數十双あり鑄子異船上に
警固士千人計あり双銃炮を持二行
其幕一通行の所を左右小幕と張結
異船の左右沛固の大小名番船數十艘
十四ヶ所を備揚沛年番松平英法守殿
松平肥前守殿九羽沛月附松平又殿守殿
小笠原信濃守殿渡別度能幸彦有馬彦
松浦彦小倉小笠原彦大村丹波守殿
對加彦結合沛泉中各陣備小旗
七押立吹貫松平武笠美浦備有之
旗の明垂大算と燒の長河より硫黄湯
五里半石火矢甚揚七ヶ所
四本肥前彦
三本能登彦
武笠鎧付野陣左右前後七ヶ所不夜幕守
中一旗吹貫守立武笠岩重備武指貫
六百目大筒七預
一廿五六貫同
指貫六貫目前後五六指貫可有之
目と警固の備也云云

人解衣裳紅毛人一艘

人脚衣裳、紅毛人、服、此、皆、大、共、之、
五、尺、六、尺、有、余、或、七、尺、位、人、亦、亦、
中、以、紅、毛、之、遠、い、鼻、括、外、不、言、而、辨、
日、本、人、に、似、似、者、を、經、髪、之、上、官、の、筒、形、
取、中、を、冠、り、下、宿、の、皆、大、黒、取、中、に、似、る、と、
冠、り、い、

一、佛、奉、行、の、業、作、佛、の、行、を、馬、場、書、屋、の、
福、井、金、平、吳、私、人、使、と、し、太、平、丸、
に、佛、役、附、の、幕、と、お、し、旗、私、平、と、括、立、

數、多、吳、私、と、し、日、本、武、藏、を、憚、
長、崎、下、り、之、四、里、許、津、神、湯、と、申、知、奉、
私、を、居、る、

一、十八、日、一、の、檢、使、と、し、馬、場、書、屋、の、主、房、庭、捕、
先、奉、私、を、小、私、に、寄、り、吳、私、一、舟、に、附、通、り、
若、中、入、い、の、只、今、從、稟、頭、為、檢、使、其、人、
佛、出、役、之、類、を、中、入、の、將、と、吳、私、り、通、り、方、
中、以、い、若、私、に、從、私、中、取、私、人、若、い、若、私、
扣、之、私、を、願、是、より、中、上、者、に、換、移、左、
不、苦、と、直、之、宗、以、り、を、玉、子、下、寧、之、は、檢、使、

每人、に、名、キ、ヨ、ク、ロ、ク、と、出、し、外、は、先、手、
通、り、其、珍、々、の、物、を、志、す、之、程、所、程、
湯、と、出、し、支、り、業、出、し、有、平、糶、之、花、鹽、
外、人、物、不、し、銀、葉、子、と、出、し、又、若、佛、子、

松を以て一皆海軍陸軍に廿又人
五行に分れ組むる者箇々在國に
変化を乞ふなり又船海軍に別物出
き丈五六尺長き者水中に飛込右
に下平と云ふ者に原式寸許長
式尺幅を二人余と云ふ板海上擲
込の一式は擲掛式なり其式は
尚下板の條又右板の上居る者
夫分傳。
此式可人洋飛込種々藝を以て時
多馬の藝と云ふは諸人右種
と云ふ

殊に地味波事米代末也
ハウテイラ和の中に教人意込に水
式大平上には有る和内に
居るは水中に仰いで仕掛を考
妙あり

一 異和兵種に是より和兵と異て交
旨類として國法に云くは此段は以
て度又野菜の類なり類出題然止
此段は少許の上野菜の儀なり
然るに異和兵より積込の条は概して反

類りに類し得るは交易類に是より和兵は
取らば先方の中に全自分と類し
之に我國主の命を請はるは彼に
吾等日本に扶助を可更義を云ふ



魯西亞船中大
 御檢使と饗應圖

頻りに願ひ得共交易願し昔は彼は
 斯く後先方中山に才全自分之願
 云々我國主命と請渡来汝六
 云謂日本之扶助と可更義云々此
 云後ハ右之願と此之度昔 兵松来ノ
 にかり及有願又々艘ハ國洋告者
 詞小余ノ及有教度願之奈儀事
 時海と去成七月廿六日火船或十日限
 而國洋に出帆同月廿九日兵船船志
 十日之自限と云出帆

十日之日渡りし公帆

魯西亜船中大
御檢使と饗應圖



一 去七月廿日大村丹後守様由屋浦決
殿之上は大廿午に御掛位之好何
能事の由殿若長屋の原根に歩行
尾と硝砲の殿様は廿二日由是美子
去大勢の事左市中に下宿と取
右下宿迄右の怪物を語人皆膽を
滑しあひし途に凡四五十人余は怪象
人有之又二十餘同名様は固場也

右下宿直右之妖物延々諸人皆膽を
滑しあひて逃去凡四五十人余も怪象
人有之又いそ夜同名様は固場長と
と離れ大浦と申度陣不有と云家老方

右陣場には備哉此れ同夜同刻
右妖物何より後彼れ中一死逃り
是れ初め恐れ之とも毎々用已
事此れ妖炮を歩むと波中

何れこれ逃去しを初とて黒幕
小笠原様軍船も衆合人々俄に大
風起り岸に大波を歩舟も
とすや音の人の犯氣も変化

物出たりとて家老と紀のり家老
い主人を妖怪とん来に組合せし時
之れ此れ後之破る如く来に敵を

尺合あされ如く行り一宿不六
五位廿五日小笠原北前細川隆利等
外後差し軍船不致渡り出初船
中へいとい唱者しと来前又通

自り生氣積りなれとも今皆此
如く人々五位声帯中一歩え皆
悲れ後一人外不出此れ
止りしは保軍船外商人船接

一切右様之事云々

...

此の夜に後一人外へ不出て来
止りしに併軍取外商人取扱
一切右程之事云々

一廿七日夜、大黒田様は兵士及き万余

一此同勢は屋敷之外市中下宿と
取より度沸殿始とて長巻を外
下宿迄俄に音とて才丈数才丈の
大坊を既とて一屋敷を強劫為成
其具歩軍人と殺し流炮と揃られ
心奪と消空に及るより十外同宿下
宿多酒飲んと志すも一音申に上り
燭懸りと逆頼申もえ又ハお久
通り手に同士共揃合致し一筆
一夜に之に交信を外共今も徳家

一此場場茂種と扱は一事
一是道退役不押中取と何と多事

一此指人余宗合一人と史妖怪
と前文に通し一組合大騒動致し

一人と種々の説ありし事
九人迄ヲロシヤと邪法を行ふと云

一説有之今も志世候なる事

一漸後不る長濱所惣撰守は糸巾

九事大社を祓訪大明神有之

△

後有之今之志世後也

一 浙後不^る長濟河無^く漢守^は朱^の市^に
比^し市^に大社^を祈^ひ大明神有^る

是^は惡魔降^つ伏^せ之^は祈^ひ禱^ひ日^に有^る

一 魯西^に應^じ接^し濟^の同^代之^は川^路

左^に衛^の尉^及簡^并紀^守及^は荒^尾在^る

布^衣古^質謹^一帝^及十^月八^日長^濟

表^に可^報遣^首被^仰身^に抗^し不^是私

申^渡癘^流流^り之^は過^手死^去也

頭^分の^人死^去身^を出^帆也

石^出立^る人^の後^に也

糸^局之^は流^進依^り又^に取^り出^す

之^は相^成の^傳使^る人^の十^月廿^五日

登^時既^暫以^見合^之は^何法^に後

又^に十^月晦^日各^出立^る何^處申^山道

何^處也^云

十二月十四日西^津設^所に^は魯^西亞^大將^方

只^人侍^方是^惟之^近九^九指^人ハツテイラ^船九^艘に

章^組上^陸之^は同^井信^川路^維志^御將^軍也

馬^帽子^將衣^之荒^尾惟^若西^津設^所奉^行志

大^紋其^外者^若上^下着^用也^當以^推抄^在所

後^に馳^走大^將方^四人^之計^七章^侍方^五人

十二月十四日西津役所より魯西亞大将方
の侍方是様之近江九指人のハツテイラ船九艘に
乗組上陸し、山筒井修川路修志御将軍六
馬帽子將衣之荒尾修並西津役所奉行志
大紋其外志者上下着用也當は控拵申所
後馬馳走ハ大将方四人ハ三汁七葉侍方之志
或汁七葉是候方之志人ハ赤飯之盛也誠
沸下穿之志五枚也魯西亞人大收之志心
患度其目志首尾能振舞亦相解其志各
之志帰中ハ

一 十六筒井修初江迄ハ其志下向之志役令
不殘魯西亞船之志入ハ相成其志新志也其志
二 更亦反杯之志當ハ其志方志家志其志
志此志中上之志又炮御杯ハ其志價中ハ其志其日
之志物

太刀

志振

金高前繪

文箱

破箱木亦之澤山

米

百五拾俵

右之通り志申志其志是志志禁割之志申

志志一ハ相成其志其志人志大申ハ大收仕留

十八日西津役所ハ亦之魯西亞人五拾人

上陸其日其志古人数ハ或汁七葉之志其志也

廿日魯西亞人ハ亦之其志其志一ハ

亦日廿一日上陸ハ其志一居ハ

風説ハ飛失候方ハ其志交易屋其志及何國

志其志水其志買清方ハ其志其志其志

廿日魯西五人より品獻上りし事

廿日廿二日上陸し居り

風浪ハ形天領方々交易済事及外國
諸君水物業買清友ハ既於本島海
以外國今より世事不為故於此斗中
後亦之類ハ由右ハ月二三ノ条モ
本島中或何事モ本島ハ既西
船ハ既入之御公儀中其ハ本島諸君魯西
諸君結合ハ建是古信儀之結ハ既中本
島ハ既済しハ其方交易ハ本島モ考

寅
正月八日平松退帆

忠堂藏

